

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	裾野市の交流を深めよう		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報

下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	日本の出元町		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	ドロップダウン選択一	2. 学生
チームメンバー数(公開)	4名		
代表者(公開)	中野一心		
メンバー(公開)	杉浦愛梨、小松姫星、島津侑月葉		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 ➡

OK

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、[どのような社会的活動\(サービス\)を行うのかを具体的に](#)示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

『何』を

来るべき人口減少を見据え、小中学校を使ったイベントを開き、裾野市の交流を深め活気のある地域を作り上げる事業です。

イベントに参加するために来た人々が、自然が多く学びやすい地域だと思い裾野市に移住することを考えてくれる可能性を考えたイベントをします。イベント内容は、活気のある地域にするために大人から子どもまでの多くの人にどのようなイベントをしてみたいか聞き考えます。

『だれ』が『だれ』に対して

裾野高校 2 年生 4 人の生徒が主体的になって活動します。小中学校でイベントをする際は、裾野高校の生徒が小中学校で行うイベント内容について場所を提供してもらう小中学校の責任者と話し合い協力を得ます。イベントにかかる費用などは裾野市役所の人と話し合い、決めていきます。

イベントを開催するために、協力してもらいたい人達は裾野高校生で探したり市役所の方を通じて紹介してもらったりします。裾野市役所の方に紹介してもらうことによって、私たちだけでは繋がることができなかった人たちとイベントをつくり上げることができます。

『いつ』

夏休みや、ゴールデンウィークなどの多くの人が長期休みの時期

『どこで』

裾野市以外の地域の人々にもイベントに参加してもらうことを考え、場所がわかりやすい裾野駅の近くの小中学校を借りるなど、誰もが来やすい場所を使う

『どのように』

イベント開催日については、裾野市役所の方や貸していただく学校と調整します。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

【なぜこのアイデアが必要なのか】

このアイデアを実行すべき1つ目の理由は、裾野市が活気のある地域になるからです。

裾野市では、活気のあるイベントが少なくなってきました。

そこで、裾野高校の生徒が主体となって大人から子供たちまで多くの人が協力し合い、楽しめるイベントを考え開催することによって裾野市が活気のある地域になります。

活気のある地域にすることによって、人々が支え合い安心して暮らせる地域をつくることができます。

2つ目の理由は、裾野市に遊びに来る人が増えるからです。

裾野市では、年々人口が減少してきました。

そこで、イベントに来た裾野市以外の地域の人々が裾野市は自然が多く学びやすい地域と感じてくれることによって、子どものいる家族が裾野市の移住を少しでも考えてくれる可能性があると考えました。

【実現する意味】

現時点では裾野市で地域交流不足が原因で目立った問題は発生していませんが、人口減少社会において、今後数年で裾野市の人口も減少し、地域交流の場が縮小する可能性があるため、今から地域交流の場を作ることが重要だからです。

一般公開されている統計データからグラフを作成しているGD Freakというサイトの報告によると、裾野市の人口推移は、2000年には52,682人だった人口は年々減少しており、2025年には50,911人、2050年には37,980人まで減少すると予想されています。

私たちは、すべての世代が交流を深めることによって地域に活気が生まれ、助け合いや支援の精神が育成されると考えているため、人口減少は地域に問題が起きた際に助け合うことができません。また、15歳から64歳の働き盛り世代が減少し、65歳以上の高齢者が増加するという予想もあり、これは地域活動に影響を与えられそうです。

若者が減少することにより、大人や高齢者向けのイベントが増え、子どもから大人まで楽しめるイベントを考えることが難しくなる可能性があります。そのため、若者との交流を深めることが重要です。若者が地域の活動に参加することにより、地域の文化や産業が活性化し、地域経済が盛り上がるだけでなく、

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

観光業に新たな魅力を生み出すことも期待できます。このような地域になることによって、すべての人が裾野市を良くしようとする地域になり、明るく賑やかな地域になると考えます。

このような活気ある地域を実現するためには、大人から子どもまでが参加できるイベントを通じて交流を促進し、若者が地域貢献に積極的に参加しようという意識を高めていく必要があります。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

提案する主体

1. 実現する主体

実現する主体は裾野高生で組織された、裾野高生の2年生4人である。

2. 実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)の大まかな規模とその現実的な調達方法

ヒト:①市役所の方

②小中学校の責任者

③イベントを開催するために手伝ってもらう、大人や子ども

イベントに必要な道具は、裾野市役所から提供してもらったものや、イベントを開催するために場所を提供してもらう小中学校にあるものを借用する。

当初必要な資金は、クラウドファンディングをし集めたりイベント参加者から参加費を払ってもらうなどして集めようと考えています。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

■これまでの時間軸

5月 裾野市の課題の学習

6月 課題に対する仮説

7月 どのようなイベントがあるのか調べ学習

9月 八幡宮のお祭りに行き、イベント実施に関するアンケート調査

10月 裾野市のイベント参加のための準備

11月 裾野市のイベント参加・まとめ

■これからの時間軸

2024年度 裾野市のイベントに参加

2025年度 開催するイベント内容決定・準備

2026年度 イベント開催

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

2030 年度 イベント開催規模を拡大する